

小学校におけるキャリア教育の現状と課題から 生徒指導、進路指導を考える

勝 田 み な

<摘要>

子どもたちにとって学校生活が充実したものになるために、さまざまな学校の場面の中で行われている働きかけから、子どもたちの成長と発達を教師が促進させたり支援したりしていく。授業を通して、子どもたちに、学力の重要な要素である基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために、思考力・判断力・表現力等、学習意欲を身に付けさせる必要がある。また、教科等の指導の他にもさまざまな指導がある。キャリア教育もその一つとして考えられ、教育活動を通じ子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方をもつことである。キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成の視点で、考え方や内容を整理して発達の段階に応じて体系的・系統的に指導することが大切であり、そのためには、教師自身の感性や指導力向上のための研修などが必要になってくるだろう。子どもたちが、自己実現を図っていくためには、適切な生徒指導や進路指導を行う必要もある。そこで、本稿では、子どもたちの発達を支える指導の中で、小学校におけるキャリア教育の現状と課題から生徒指導、進路指導について考えていく。そして、学校教育活動の中でどのように必要な働きかけが行われて、成果として現れているのかどうかを考察する。今まで当たり前のように行ってきた子どもたちへの働きかけは、今回、キャリア教育の現状と課題から生徒指導、進路指導も視野に入れて指導がなされてきたことを再確認することができた。教師は、教科の指導はもちろんのこと、教科外の指導についても、全教職員の協力で子どもたちの実態に合わせた指導・支援に邁進していくことが今後の課題になる。

キーワード：キャリア教育 生徒指導 進路指導

I はじめに

小学校の教師になりたいと希望して進学してきた学生が、これからの学校教育を担っていく教師になるためにも、多忙化の教育現場の課題等に応える力を身に付ける必要がある。教師の仕事は責任重大で大変であるが、やりがいのある仕事でもある。かつては、子どもたちの成長した姿を見ることができるのは、苦労や大変さを吹き飛ばすほどの魅力ある職業であると言われることもあった。

小学校教師採用試験の倍率は、令和4年度採用が愛知県2.7倍（令和3年度採用3.1倍）だった。近年、教師採用試験の倍率が低下していると言われているが、中でも小学校の倍率は低下しており、深刻な自治体も出てきている。令和5年度採用の低倍率も否めないところであるが、その理由として考えられるのは、教師間の人間関係が問題視されたことや教師の長時間労働などの問題等が挙がるのではないだろうか。

小学校教師をめざす本学の学生は、「自分自身が小学生の時に出会った先生のようにになりたい」と話した。目標になった先生が自分の周りにいたことは、将来の夢をもち実現に向けて頑張っていこうとする原動力にもなっている。夢で終わらせないためには、小学校教師という仕事に就くために日々の学修に励むことになる。養成校では、教職内容を学ぶことになるが、教師の仕事の中心となるのが教科等の授業にあたる。授業を通して、子どもたちに、学力の重要な要素である基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、学習意欲を身に付けさせる必要がある。また、教科等の指導の他にもさまざまな指導がある。キャリア教育もその一つとして考えられ、教育活動を通じ子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方をもつことである。キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成の視点で、考え方や内容を整理して発達の段階に応じて体系的・系統的に指導することが大切であり、そのためには、教師自身の感性や指導力向上のための研修などが必要になってくるだろう。子どもたちが、自己実現を図っていくために適切な生徒指導や進路指導を行う必要もある²⁾。子どもたちにとって学校生活が充実したものになるためには、さまざまな学校の場面の中で行われている働きかけから、子どもたちの成長と発達を教師が促進させたり支援させたりしていく。中でも子どもたちと教師との信頼関係を築くことが土台になり、子どもたちを多面的・総合的に理解していくことが重要になってくる。広い視野を教師がもち、子どもたちの内面に働きかけるように共感的な理解をする。すなわち、子どもたちに対する理解を深めていくのである。また、一人一人の特性を把握した上で、教科指導を充実させることも重要であり、できたこと、分かったことを共に喜び、実感する時間の共有など指導方法の工夫は必要である。

そこで、本稿では、子どもたちの発達を支える指導から、小学校におけるキャリア教育の現状と課題から生徒指導、進路指導を考えていく。そして、学校教育活動の中でどのような必要な働きかけが行われて、それが成果として現れているのかを考察する。

II 学校教育のキャリア教育、生徒指導、進路指導

本学の教職に関する科目の「免許法施行規則に定める科目区分 ②生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」³⁾によれば、授業科目として、「生徒（進路）指導の理論及び方法」、「教育相談の基礎と方法」が設置されている^{注1)}。「生徒（進路）指導の理論及び方法」の目標は、「小学校における生徒指導、進路指導の意義と意味を理解し、理論と方法に関する基礎的な知識を身に付ける」とし、到達目標として、「小学校における学級づくり、児童理解と指導・支援及び保護者との連帯、校内組織の活用や外部機関との連携等、生徒指導・進路指導を進めるための教師としての具体的な行動を指導上の諸問題に応じて説明できる」⁴⁾と示されており、この科目は小学校教諭免許状取得には必修科目である。進路指導はキャリア教育として授業を進めることを示された理由としては、進路指導は学習指導要領上、中学校及び高等学校（中等教育学校、特別支援学校 中学部及び高等部を含む）に限定された教育活動という理由からである。

国立教育政策研究所発行の『生徒指導リーフ』によれば、生徒指導とは、「社会の中で自分らしく生きることができる大人へと児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけの総称のこと」と示されている⁵⁾。学校が教育目標を達成するためには、教科指導と同様に生徒指導は重要である。互いに独立をしているものではなく、深くかかわっている。生徒指導は、問題行動に対処するものだけにとどまってはならない。一ノ瀬は、「教科指導が充実し学力が向上すると生徒も学習面での達成感、自己肯定感を持ち活動も活発となり生徒指導が充実していく。一人の生徒の中では教科指導と生徒指導が互いに双方に良い影響を及ぼし教育活動が充実してくる」⁶⁾と、相互作用が働くことによって良い学校・学級環境を及ぼし、学力向上につながると述べている。

進路指導とは、「本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、さらにその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教師が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である」⁷⁾と示される。卒業時の進路をどう選択するかを含めて、さらにどういう人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期展望に立って指導・援助するという意味で「生き方の指導」とも言える教育活動である⁸⁾。進路指導では、6つの活動を通して実践し、① 個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と、正しい自己理解を生徒に得させる活動、② 進路に関する情報を生徒に得させる活動、③ 啓発的経験を生徒に得させる活動、④ 進路に関する相談の機会を生徒に与える活動、⑤ 就職や進学等に関する指導・援助の活動、⑥ 卒業者追指導に関する活動⁹⁾である。黒川は、小学校、中学校、高等学校に勤務する教師に、6つの活動の現状と課題について調査を行ったところ、学校間の取り組みの違いがあり、特に公立学校では、同校種間において連携をし、進路指導の情報共有を図っていくことが必要であることを指摘した。それぞれの発達段階において取り組める活動があると考えられるからである¹⁰⁾。

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育

てることを通して、「キャリア発達を促す教育」¹¹⁾と示されている。キャリア教育は、就学前段階から初等中等教育・高等教育を貫き、若者を支援するさまざまな機関においても実施される一方、進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じである¹²⁾。キャリア教育と進路指導の関係は、図1のとおりである。

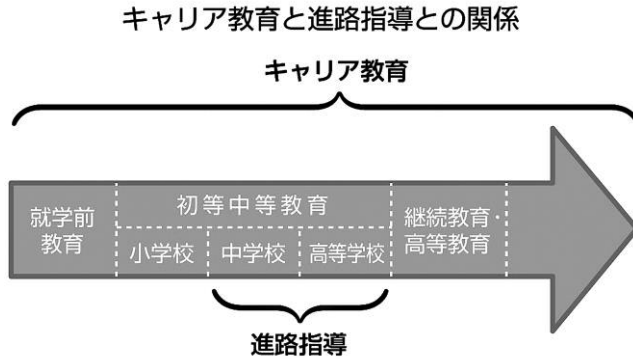


図1 キャリア教育と進路指導の関係（出典：文部科学省 キャリア教育の手引）

小学校学習指導要領総則では、「児童が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつづ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実をはかること」¹³⁾と、キャリア教育という言葉が明記された。また、中学校学習指導要領では、上記の続きとして、「その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと」¹⁴⁾とある。進路指導については、卒業後の進路について意思決定することがゴールではなく、自分自身の生き方や生活をよりよくするため、自己実現に向けて進んでいくことができるようにすることが大切になってくる。

中山は、「進路指導・キャリア教育と生徒指導は、何をすれば生徒指導になり、何をすればキャリア教育になるというような、活動内容に規定される指導ではなく、ある活動を通して何を考えさせるか、何を意図して働きかけを行うかという、「視点」としての役割を持つと考えられる」¹⁵⁾と述べており、子どもたちの発達や課題によって意図した活動内容を固定化せず、教師間で共有し改善を行いながら指導をしていくことが求められていくことと言えよう。

生徒指導と進路指導・キャリア教育の関係は図2のように表すことができ、進路指導・キャリア教育は、子どもたちの社会的資質や行動力、自己指導能力を高めるという生徒指導の一環としてとらえることが可能¹⁶⁾である。

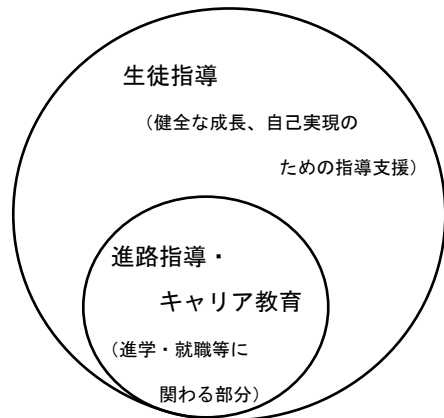


図2 生徒指導と進路指導・キャリア教育の関係（中山作成）

生徒指導、進路指導・キャリア教育は、学校の全教育活動を通して進められていくことが望ましいと考えられる。

Ⅲ 小学校におけるキャリア教育

小学校学習指導要領では、「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と示されている¹⁷⁾。意識的に社会における自己の立場に応じた役割を果たせるようにキャリア教育を進め、より良い状態を形成する能力を身に付けていく必要がある。

(1) 小学校でのキャリア教育

キャリア教育は、義務教育の9年間を見通した上で、全教育活動の中で意図的・継続的に推進していくものである。特に、小学校での6年間は成長が著しく、社会的自立・職業的自立に向けて、その基盤を形成する重要な時期である。家庭・地域・学校の活動の中で自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てることが重要である¹⁸⁾。また、子どもたちの発達段階を踏まえて、小学校で育てたい力を計画的かつ系統的に考えていくことが必要である。小学校におけるキャリア教育の目標例を以下に示す(表1)¹⁹⁾。小学校では日常的な経験を積み重ねながら、他教科との関連を図ることが大切である。総合的な学習の時間や学校行事、道徳教育や各教科の学習を生かしつつ、キャリア教育は学校の教育活動全体を通じて、基礎的・汎用的能力の育成を図っていく取り組みを進めている。具体的な指導にあたり、教師が各自の役割を果たし、子どもたちの成長を促していくのと同時に、各教師の指導力を高めることにつながる。キャリア教育で身に付けさせたい資質・能力・態度を目標に明示し、教科横断的に指導ができるようにしていくのである。

表1 小学校におけるキャリア教育の目標例

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">●自己及び他者への積極的関心の形成・発展●身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上●夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得●勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成 |
|---|

(出典：小学校キャリア教育の手引き 項目だけ抜粋)

小学校のキャリア教育推進のポイントとしては、「働くことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う」と示され、幼児期の教育から高等教育まで、発達段階に応じ体系的に実施されている²⁰⁾。さまざまな教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力育成に必要とされる4つの能力は、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」である。そして、これらの能力は関連し合っている。キャリア教育の推進にあたっては、現在行っている教育活動をキャリア教育の視点から見直していくことが大切になる。「キャリア教育の視点」とは、社会的・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方をもつこと²¹⁾であり、例えば教科・科目において、今学んでいることが社会でどのように活用されているかを紹介するなど、現

在の学びと実社会とのつながりを意識させ、学ぶ意義を認識させる働きかけが増えることになる。すなわち、4つの能力を育てていくことである。今までの学びに対して、キャリア教育の視点で捉えることによって、教師の指導の在り方にも変化が期待されるのだ。そこで、A小学校での実践からキャリア教育の現状の一端を紹介する。

(2) A小学校でのキャリア教育の実践

① キャリア・パスポートについて (1年生)

令和2年度(2020年度)から全国の小学校に「キャリア・パスポート」が導入された。キャリア・パスポートとは、「児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育にかかわる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのこと」²²⁾と示され、子どもたちの自己実現をめざすために、教師は子どもたちの記述をもとに対話的にかかわることによって、子どもたちの成長を促し系統的な指導をするものである。A小学校では、市内で統一している「キャリア・パスポート」を1年生から使用している(図3、4)。

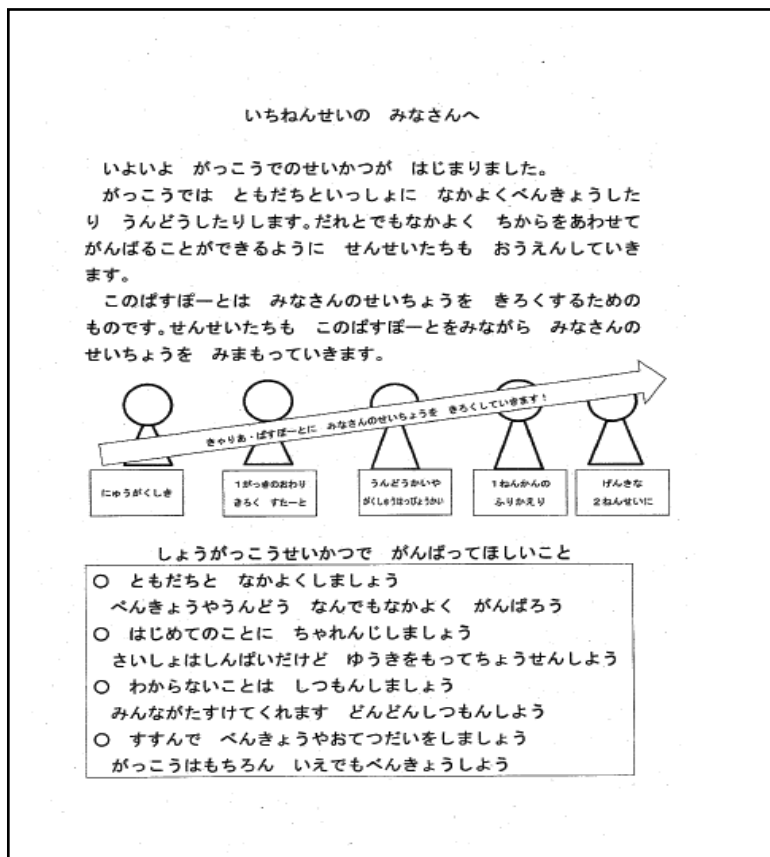


図3 キャリア・パスポート 1ねんせい

1ねんせい1がつきを ふりかえりましょう	なまえ																				
1 1がつきのことを おもいだして かきましよう																					
がっこうで がんばったこと (がくしゅう)																					
(せいかつ)																					
おうちで がんばったこと (おてつだい・ならいごと)																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">どのくらいできたか、○をつけましよう。</td> <td style="width: 10%;">よく できた</td> <td style="width: 10%;">できた</td> <td style="width: 20%;">もう少し</td> </tr> <tr> <td>①ともだちと なかよく できましたか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②はじめてのことに ちゃれんじ しましたか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③わからないことは、しつもん できましたか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④すすんで べんきょうやうんどうを しましたか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		どのくらいできたか、○をつけましよう。	よく できた	できた	もう少し	①ともだちと なかよく できましたか。				②はじめてのことに ちゃれんじ しましたか。				③わからないことは、しつもん できましたか。				④すすんで べんきょうやうんどうを しましたか。			
どのくらいできたか、○をつけましよう。	よく できた	できた	もう少し																		
①ともだちと なかよく できましたか。																					
②はじめてのことに ちゃれんじ しましたか。																					
③わからないことは、しつもん できましたか。																					
④すすんで べんきょうやうんどうを しましたか。																					
せんせいから																					

図4 キャリア・パスポート1ねんせい

「キャリア・パスポート」を作成している学校は、「キャリア教育に関する学習や活動に積極的であったり、その活動を通して、基礎的・汎用的能力などの学校が育成したい力を身に付けたりしているなど、望ましい姿が見られている。特筆すべきこととして、学習に対する意欲が高まっていること」²³⁾と、調査結果の分析がある。A小学校のように市内で統一した内容であれば、学習に対する意欲を低学年から育成していることが理解できる。すなわち、「キャリア・パスポート」を用いることによる教育的効果は高まると言える²⁴⁾。学校での活動や様子を保護者に知らせ、家庭との連携を取っていくことが大切であり、学校と家庭、一体となってキャリア教育に取り組んでいくことになる。課題としては、フィードバックの進め方や家庭との連携を一層強めていくことが挙げられる。

② キャリア教育の活動 (6年生)

「総合的な学習の時間」で、近隣の保育園にて「保育園の先生になってみよう」というキャリア教育の活動を行った。「基礎的・汎用的能力育成」の「人間関係形成・社会形成能力」を中心として、本時のねらいを、① 体験活動を通して保育士の仕事を知る、② 園児と触れ合うことによって他者の立場や考えを理解する、とした。将来、保育士になりたいと思っている子どももいて、保育士の仕事に興味を抱いていた。直接、保育士に質問をしたり、保育士の仕事を熱心に観

察したりしていた。実際に、園庭で園児と遊んだり、園児へ絵本の読み聞かせをしたりして交流を深めていた。以下は、保育園での活動後の感想である。

- ・年長さんと一緒に遊んで、かわいかった。将来は、保育士になりたいと思った（女子）。
- ・保育園の先生の話し方が、子どもにわかりやすく話していた（男子）。
- ・絵本を読んでいる時、真剣に聞いてくれてうれしかった（女子）。

この活動では、保育士の仕事を通して、誇りをもちやりがいを感じながら取り組んでいる人に直接ふれることができた。職業に関する体験活動に参加することにより、子どもたちの学習意欲や基礎的・汎用的能力は向上する²⁵⁾。課題としては、外部の職業に関する体験活動の対応をしてくれる業者があるのかどうか、また学習時間を含めて教師の労働時間が守られるのかどうか、学校の状況による点である。

Ⅳ 小学校における生徒指導、進路指導

(1) 生徒指導、進路指導の方法

生徒指導とは、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと」²⁶⁾である。子どもたちが安心して学級や学校において落ち着ける居場所をつくり、教師は意識的に子どもたちとの信頼関係を築き、子どもたちの理解に努める必要がある。また、子どもたちが活躍できる場や学び合える場を保障する楽しい授業づくりを進めていく工夫、改善をする。

東風は、「小学校の生徒指導においてキャリア教育をしっかりと充実させること」²⁷⁾と述べ、その方法として、「教科・領域等の授業におけるキャリア教育に期待するだけでなく、横軸としての生活指導を活性化させ、児童がキャリア教育に関する学びについて、その課題意識が弱まらない内に、日々の学校生活の中で生徒指導を活用しながら課題意識の継続と高まりを導き、次の教科・領域等の授業につなげていく」²⁸⁾としている。すなわち、キャリア教育で育つ力が、生徒指導でも子どもたち一人一人の力になっていたということである。学校生活の中では、人間関係を深めてコミュニケーションを取っていく必要があり、集団での意欲や態度を育てていくことにもつながっていく。

四海らは、「自己実現の基礎にあるものは、日常の学校生活の場面における様々な自己選択や自己決定であり、可能な限り児童生徒に自己選択や自己決定の場や機会を与え、その過程において、教職員が適切に指導や援助を行うことにより、児童生徒を育てていくことができる」²⁹⁾と述べており、学校生活のさまざまな場面での生徒指導の必要性を示した。また、生徒指導の課題達成のために、「達成のために必要な手法などは、職員研修などを実施し、共通理解として取り組む必要がある。教師の連携がしっかりと取れている学校は、児童生徒も落ち着いて充実した学校生活を過ごせるはずである」³⁰⁾と、個々の教師の指導力の充実についても言及している。子どもたちの発達に応じた一人一人の指導や援助も大切になってくる。

教師になって年数の若い初任者は、授業を進めていくだけで1日の時間が過ぎていってしまうが、教師はさまざまな課題に対応し、例えば、いじめ、不登校などの問題を抱えている子どもへの対応をしたり、時には保護者への対応も行ったりする。同僚、先輩教師からの助言を聞き、多忙な仕事をこなしていかなければならない。特に初任者教師に求められる行動には、① 児童が主体的に学び、ともに生活できるよう働きかける、② 一人一人の児童としっかり向き合う、③ チームの一員であることを自覚する³¹⁾が挙げられる。

進路指導については、前述したように、「進路指導は学習指導要領上、中学校及び高等学校（中等教育学校、特別支援学校中学部及び高等部を含む）に限定された教育活動という理由」、「進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じ」（「Ⅱ 学校教育のキャリア教育、生徒指導、進路指導」）と考える。小学校においては、進路指導としては図1のように正規の活動は設けられていないが、「生き方の指導」として子どもたちが社会の中で豊かに生きる力を育む指導である。キャリア教育の目標例（表1）にもあるが、たとえば「個人的な能力を伸ばすと共に、挨拶や礼儀などのマナー、人とのコミュニケーションの取り方など、社会生活の基本となる事柄を学ぶ」³²⁾とあるように、子どもたちの発達を踏まえて日常的な活動を経験していくことが大切になる。ここでは、A小学校の生徒指導での実践を紹介する。

(2) A小学校での生徒指導についての実践

年度初めの職員会議では、その年度の生徒指導についての提案が、生徒指導部からなされる。提案内容は、指導の重点、指導体制の決定、活動内容、留意事項などである。この提案では、生徒指導上の問題は、全教職員の共通理解として情報共有を行い、生徒指導部だけではなく、学年の枠を超えて、養護教諭、教育相談担当者、スクールカウンセラーとの連携を行い、問題解決に努めていく。活動内容には、校内の生徒指導、校外の生徒指導、教育相談がある。校内生徒指導は、基本的な生活習慣を身に付けさせることが第一に挙げられる。あいさつ、言葉遣い、係活動、積極性、時間を守る、責任感、協力など、毎月の生活目標を提示する。

校外の生活指導では、登下校の安全に気を付けることが最優先で、長期休み中の過ごし方などがある。教育相談では、学級担任との信頼関係を強固にし、カウンセリングスキルを用いて子どもたちが抱えている問題を早期に発見し、子どもたちが困難に立ち向かえる強い気持ちを持ち、自分の力で問題解決ができるようにするために、援助や助言を行うことである。以上の活動内容は、学校の教職員だけでは難しい場面も出てくる。生徒指導の内容は家庭の協力を得ることで、子どもたちが安全・安心して学校生活を送ることができるものである。年度当初には、生徒指導部から保護者あてに文書で協力を依頼している。

生徒指導の目的を実現するには、特別活動を活用することができる。具体的には、学級活動として日常的な学級活動および授業としての特別活動の時間を利用して学級の活動計画、学校行事への企画運営を協働して行うことが考えられる³³⁾。ここでは、年度当初に学級活動についての生徒指導部が示した校内活動を表2、表3で紹介する。

表2 学級活動

1 目標
学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
2 内容
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ア 基本的な生活習慣の形成
イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

表3 学級活動の内容一覧表の一部(4月～6月)

指導内容 月	(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	(1) イ 学級内の組織づくりや役割の自覚	(1) ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2) ア 基本的な生活習慣の形成	(2) イ よりよい人間関係の形成
4		学級の係を決めよう	楽しい遠足にしよう		
5	学級の問題をみつけよう				
6			雨の日の遊び		正しい言葉づかい
指導内容 月	(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	(2) エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	(3) ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	(3) イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	(3) ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の利用
4	よい姿勢のグー・チョキ・パー	健康によい食事	新しい学年を迎えて	学級の当番を決めよう	学校図書館の利用の仕方
5					
6	歯周炎を防ごう				

このようにして、小学校の生徒指導は、特別活動と関連付けた指導を充実させている。まずは、学級内で助け合って、話し合える雰囲気の人間関係づくりを学級担任は心がけることが大切になる。A 小学校の教師は、小学校の生徒指導について次のように話した。

- ① 生徒指導で難しい点は、子どもたちとの信頼関係が築けていない時である。また、いじめや問題行動の指導についても難しさを感じており、丁寧に話を聴いて解決に導いていくことが基本になっている。複数子どもたちが双方に納得する形での解決をめざす。本人たちの思いはもちろん、周

【査読論文】小学校におけるキャリア教育の現状と課題から生徒指導、進路指導を考える

困の友だちや関係のある教師から情報を得たり、家庭環境を考慮したりと、慎重に問題の根源を見つけていかなければならない。早期解決をめざすあまり、安易に指導を始めてしまうと、かえって反発を招き、証拠隠しや口裏合わせ、保護者が出てくるなど、その後の指導を難しくしてしまう場合が生じる。

② こうするとうまくいくだろうと考える点は、プランを立てて、お互いがどう思うかをよく考えながら進めれば、双方が納得する形の着地点を探り出せるかと思う。

③ 生徒指導の際、気を付けている点は、問題行動を起こしてしまった子どもを「悪者」で終わらせないことである。認めさせて終了にしてしまわず、改善されたことは、きちんと言葉で伝えるべきだと思う。そうすることでこれからどうしていけばいいのかを伝えることができる。

また、なぜそのような生徒指導をしたのか、保護者にも説明できるように進めなければ、高い確率で保護者から電話がかかってくる。保護者との人間関係が悪くなれば、その子どもとその後の信頼関係の構築は相当難しくなる。感情任せでなく、保護者が「先生がそこまで考えているなら」と言ってもらえる指導ができれば、家庭でもプラスにとらえて話をしてくれると考える。

以上の感想は一部に過ぎないが、小学校の生徒指導では学級活動での取り組みにおいて指導を進めていくことになる。また、学校内で生徒指導体制が効果的に機能するためには、校長のリーダーシップのもと、全教職員が具体的な方針や方法の共通理解を図ることが重要で、この点はキャリア教育を推進していく点と同じである。普段から会話のある教職員の集団づくりに心がけ、自分の学級の問題をオープンに話せる雰囲気を持ち、情報を共有していくことが問題解決につながっていく。教職員間で支え合い、連携して行動していく姿勢は一貫性のある指導を行うことができる。また、家庭や地域との連携を深めることも大切である。子どもたちに基本的な生活習慣を身に付けさせるには、家庭の力は大きく、学校と家庭の双方向で同じ歩調での指導は欠かせないものである。子どもを理解していくためには、子どもの話をしっかりと聴くことが土台になる。子どもの心を引き出すような聴き方・話し方の方法を学ぶためには、教師の力量を高めていくための研修会等に参加し、教師も日々学び、子どもたちと同様に成長できる環境が必要である。学校生活全般にかかわる内容であり、安心安全な生活を送るためには、教師だけではなく家庭との連携を以下に取っていくのが課題になっている。

V まとめ

本稿では、子どもたちの発達を支える指導から、小学校におけるキャリア教育の現状から生徒指導、進路指導を考えていき、そして、学校教育活動の中でどのように必要な働きかけが行われて、成果として現れているのかどうかを検討することであった。

(1) 学校教育活動中での必要な働きかけ

学校教育と聞くと、先生に勉強を教えてもらい、教科の学習をすることが思い浮かぶ。教師は授業でその学年に沿った教科内容を教え、子どもたちにそれぞれの教科における知識や技能を身

に付けさせることが大きい。子どもたちも保護者も教科の試験結果に目が行き、点数を上げるために勉強を繰り返していく。教科学習に意欲をもって取り組むことができればそれに越したことはない。しかしながら、学校という集団の中で子ども自身がどのようにして過ごしていくのかを考えたときに、キャリア教育の現状から生徒指導、進路指導が重要な役割を担うことが改めて理解された。すなわち、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成の視点で考え方や内容を整理して発達の段階に応じて体系的・系統的に指導することが大切であり、キャリア教育を推進することができ、生徒指導等についても効果的な実践に結びついていくとも示され、キャリア教育で育成している力は生徒指導においても効果を発揮するということと言える³⁴⁾。橋本は、生徒指導・進路指導を充実させるための研究の中で、「学校における指導の両輪」³⁵⁾と述べた。それは、児童生徒に直接関与していく取り組みだからである。また、「ベースは個々の異なる児童生徒の内面や外面を理解し、継続的に指導、援助していくことである」³⁶⁾と指摘している。教師経験にもよるが、初任者においてもキャリア教育、生徒指導、進路指導を当然進めていくことになり、子ども理解を深めていくには、教師自身の感性や指導力向上のための研修などが必要になってくる。特に生徒指導は、問題が複雑にからんでくると、何について指導を進めていくのか問題が不明瞭になってしまう場合も出てくる。教職員が同じ方向で子どもたちの指導に当たっていくことは、当然のことである。学校における教師の現状を今一度再検討し、指導の進化、深化を再構築していく必要があると考えられる。

(2) 成果として

A小学校では、キャリア教育を「総合的な学習の時間」、生徒指導を「特別活動」で指導を行っていた。学校教育における教科等とキャリア教育との関係では、「特別活動、道徳、総合的な学習の時間は、それらが教科の学習で学んだ成果等を様々な体験活動や話し合い等を通して、深化・発展、統合させたり、逆に、その成果を教科の学修に還元し反映させていくというねらいを持っている」³⁷⁾となっており、A小学校においても関連付けて取り組んでいることがわかる。また、各学級で行われるということもあるが、学年ごとや学校全体で取り組むことも考えられるので、全教職員で進めていく工夫も必要になる。まさに、普段の学校生活の中にキャリア教育の視点を意識しながら取り組んでいくことが重要になってくる。社会性の育成、社会に受け入れられる自己実現を願って、幅広い働きかけを明確かつ計画的に行うことと臨機応変に行われる時々の働きかけが重要になってくる³⁸⁾。何気ない当たり前のことを、教師が適切な働きかけを意図的に行うことであり、この点は生徒指導に限らず、キャリア教育についても意図的、継続的な取り組みを進めていく点は同様である。キャリア教育、生徒指導、進路指導の成果として表れるのは、活動内容によってさまざまである。活動の過程でうまく進んでいる場合もあれば、遅々として進まないものもあろう。

子どもたちを理解して、子どもたちが自分らしく生きていくためにどのようにすれば良いのかは、まずは学校で、全教職員が熟考して取り組んでほしい。また、今まで当たり前のように行ってきた子どもたちへの働きかけは、今回、キャリア教育の現状と課題から生徒指導、進路指導も

【査読論文】 小学校におけるキャリア教育の現状と課題から生徒指導、進路指導を考える

視野に入れて指導がなされてきたことを再確認することができた。教師は、教科の指導はもちろんのこと、教科外の指導についても、全教職員の協力で子どもたちの実態に合わせた指導・支援に邁進していくことが今後の課題になる。

【注】

1) 文部科学省から提示された教職コアカリキュラムでは、各科目に含めることが必要な事項として「生徒指導の理論と方法」と「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」は別々に扱われている。また、教職コアカリキュラムでは、「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」が提示されている。

【引用・参考文献】

- 1) 愛知県教育委員会（2021）「令和4年度（2022年度）採用愛知県公立学校教師採用選考試験の志願状況について」
- 2) 文部科学省（2009）「教師をめざそう！」文部科学省初等中等教育局教職員課 pp.3-4
- 3) 名古屋経営短期大学（2021）『学生便覧 令和3年度入学生用』p.65
- 4) 名古屋経営短期大学（2021）『シラバス』p.118
- 5) 文部科学省 国立教育政策研究所（2012）「生徒指導って、何？」 Leaf.1 生徒指導・進路指導研究センター
- 6) 一ノ瀬敦幾（2019）「新学習指導要領における生徒指導・進路指導の方法 ー特別活動、総合的な学習の時間の目的との関連よりー」常葉大学健康プロデュース学部雑誌 第13巻 第1号 pp.3-9
- 7) 中央教育審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」p.54
- 8) 文部科学省（2011）「中学校キャリア教育の手引き」P.35
- 9) 同上
- 10) 黒川雅幸（2019）「進路指導における6つの活動の現状と課題」愛知教育大学研究報告 教育科学編 68 pp.59-64
- 11) 前掲 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」p.16
- 12) 同上 p.54
- 13) 文部科学省（2018）「小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）」pp.23-24
- 14) 同上 p.231
- 15) 中山留美子（2018）「生徒指導科目における進路指導・キャリア教育の学び ー初等教育での「指導・キャリア教育」を学生はどう理解したかー」奈良教育大学次世代教師養成センター紀要 第4号 pp.205-210
- 16) 同上
- 17) 文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成29年告示）」p.24
- 18) 愛知県教育委員会（2020）「令和2年度 幼稚園・小学校・中学校 教員研修の手引」『愛知県教育振興会』p.95
- 19) 文部科学省（2011）「小学校キャリア教育の手引き」P.12
- 20) 文部科学省（2018）「キャリアの推進」
- 21) 国立教育政策研究所（2012）「キャリア教育を「デザイン」する」p.15
- 22) 文部科学省（2019）『「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項』
- 23) 国立教育政策研究所（2021）「キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書 テーマ3『キャリア・パスポート』の有用性」p.46
- 24) 同上 p.50
- 25) 国立教育政策研究所（2021）「キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書 テーマ2 職業に関する体験活動の重要性」p.40

- 26) 文部科学省 (2010) 「生徒指導提要」 p.1
- 27) 東風安生 (2018) 「小学校・生徒指導におけるキャリア教育の意義」『北陸大学紀要』第 44 号 pp.1-15
- 28) 同上
- 29) 四海飛鳥 永添翔多 (2018) 「情報化社会に対応した生徒指導・進路指導の在り方」『かやのもり』近畿大学産業理工学部研究報告 第 29 号 pp.31-39
- 30) 同上
- 31) 国立教育政策研究所 (2012) 「これだけは押さえよう！ ～生徒指導はじめの一步～」 生徒指導研究センター P.8
- 32) 東京都立村山特別支援学校 「進路指導とは」
<http://www.murayama-sh.metro.tokyo.jp/site/zen/content/000250151> (2022/1/19 閲覧)
- 33) 前掲 一ノ瀬
- 34) 前掲 東風
- 35) 橋本大治 (2018) 「生徒指導・進路指導を充実させるための教師指導の在り方」至誠館大学研究紀要 第 5 巻 pp.135-147
- 36) 同上
- 37) 文部科学省 (2004) 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」 p.11
- 38) 前掲 「生徒指導リーフ」

【謝辞】

本研究にご協力くださった A 小学校教師の皆様にご心より感謝申し上げます。

勝田 みな (名古屋経営短期大学子ども学科 准教授)